

## **「猛暑再来」の恐れも**

### **暖候期予報**

### **高温の備え必要な年に**

気象庁は 20 日、令和 6 年夏（6～8 月）の暖候期予報を発表した。記録的猛暑となった昨年夏に続いて今夏も暖かい空気に覆われやすく、「気温は全国的に高い」と明瞭に高温の夏を予測している。

高温確率は北日本が 50%（低温確率 20%）、東・西日本が 60%（同 10%）、沖縄・奄美が 70%（同 10%）と西ほど有意に高く、3 カ月予報を超えて 4～6 カ月先という超長期スパンで気温等を予測する暖候期予報で高温確率「60%」という高い確率表現が示されるのは極めてまれだ。

昨年の暖候期予報における 6～8 月高温確率は全国的に「40%」（平年並みか高い）、一昨年は明瞭な高温予測だったが確率表現は最高でも「50%」にとどまっていた。今回示された高温確率は近年で最も高い値となり、猛暑含みの「暑い夏」を見通す。

同日発表した春（3～5 月）の 3 カ月予報でも、東・西日本の気温は平年並みか高く（高温傾向）、沖縄・奄美は高い（高温）見込み。「暖冬→暖春から猛暑の再来へ」と移行する可能性も出てきた。昨年の猛暑等を教訓としつつ、6 年産でも田植時期から「高温」への備えが必要な年となりそうだ。

高温予測のベースとしては、地球温暖化や春の終わりまで続くエルニーニョ現象の影響等により、全球で大気全体の温度が「かなり高い」と予測。とくに北半球中緯度対流圏の温度は春 3 カ月が平年比 +0.7 度、夏 3 カ月は +1.0 度とさらに上昇する見込み。温暖化による「高温のゲタ」を履いたように大気温度が底上げされる状態が 6 年産の稲作期間も引き続き基本的な気候環境となりそうだ。

海洋の特徴ではインド洋熱帯域で海面水温が高く、積乱雲の発生が多いことから今夏の太平洋高気圧は日本の南で「西への張り出しが強い」見込み。その半面、太平洋高気圧の縁を回って暖かく湿った空気が流れ込みやすく、「西日本太平洋側と沖縄・奄美を中心に梅雨前線の活動が活発となる時期がある」と予測。夏 3 カ月降水量は全国的に平年並みだが、梅雨時期の降水量は西日本太平洋側と沖縄・奄美で「平年並みか多い」と多雨傾向を予測し、注意を促している。

### 夏(6~8月)の平均気温と降水量

		平均気温	降水量	
			夏(6~8月)	梅雨の時期
北日本	日本海側	低20 : 並30 : 高50	少30:並30:多40 ほぼ平年並	少30:並30:多40 ほぼ平年並
	太平洋側	高い	少30:並30:多40 ほぼ平年並	少30:並30:多40 ほぼ平年並
東日本	日本海側	低10 : 並30 : 高60	少30:並30:多40 ほぼ平年並	少30:並30:多40 ほぼ平年並
	太平洋側	高い	少30:並30:多40 ほぼ平年並	少30:並30:多40 ほぼ平年並
西日本	日本海側	低10 : 並30 : 高60	少30:並30:多40 ほぼ平年並	少30:並30:多40 ほぼ平年並
	太平洋側	高い	少30:並30:多40 ほぼ平年並	少20:並40:多40 ほぼ平年並
沖縄・奄美		低10 : 並20 : 高70 高い	少30:並40:多30 ほぼ平年並	少20:並40:多40 ほぼ平年並

(注)数字は各階級ごとの予測確率(%)。北日本は北海道・東北、東日本は関東甲信・北陸・東海、西日本は近畿~九州。

「梅雨の時期」は、北・東・西日本が6~7月、沖縄・奄美は5~6月。